

外部評価結果報告（安全 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 25 日

1 施策名

施策 1 中心市街地にふさわしい駅北口周辺の整備

2 評価点数（合計）

70 点

3 評価結果

	合計点数(評価者8人)	評価結果
	73～96 点	適正な評価が行われている
	49～72 点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	25～48 点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～24 点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

計画に基づいて着実に進めるために、市街地にふさわしい駅北口土地区画整理のまちづくりの計画を早急に作成すること。その計画の中に、駐輪場などの具体的な市民の意見を盛り込むこと。

【その他参考意見】 その他参考意見

- ・ 和光市まちづくり条例「まちづくり基本理念」にあるように、市民参加を多く取り入れ、協働のまちづくりを推進してほしい。また、和光市地域防災計画にある「災害に強い防災都市構造」を取り入れ、都市計画、地域計画を計画してほしい。（関口委員）
- ・ あらかじめ把握された課題に対して、この施策を構成する取組がどの程度、その解消に役立っているのかということをもう少し説明する内容にしてほしい。また、土地区画整理事業だけに視点が行き過ぎて、本来議論すべき「中心市街地にふさわしい整備（まちづくり）」という上位目的がなく、手段だけを論じている気がする。もちろん、まちづくりの検討のあり方についても外部評価委員の側からも担当課に参考となる意見やアイデアを出すべきだと思う。（中村委員）
- ・ 40年前の交通広場が下敷きになっていて、計画そのものが古いと思う。思い切った案を市民から集めてみたらいいのではないか。東京スカイツリーで墨田区押上地区の様変わりを見ると、和光市を様変わりさせる街作りを考えたいものだ。東武・東京メトロを地下駅にして、南北を平面でつないでほしい。（松田委員）
- ・ 交通手段の確保を完全にしてほしい。（加藤委員）
- ・ 中心市街地にふさわしい北口周辺の整備はここだけに止まることなく和光市全体のまちづくりも同時進行的に進めることが必要。また、ハード・ソフト両方を含めて、広く意見を求め、計画し、実行されることを望む。（泉委員）
- ・ ワークショップで提案された駅前広場整備計画修正案の実現に向け努力してほしい。（藤川委員）
- ・ 都市整備課所管の地下駐輪場整備計画を上記修正案との整合が図れるよう、働きかけてほしい。（藤川委員）
- ・ 良好な街並み形成を実現するために、用途地域・地区計画だけでなく、よりきめの細かい建物誘導計画を地域住民が自発的に取り組むような指導、働きかけをしてほしい。（藤川委員）
- ・ 駅北口周辺の整備を同時並行でまちづくりのイメージの具体化を図るべきではないか。南北の統一性なども考慮すべき。（梅沢委員）

外部評価結果報告（安全 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 25 日

1 施策名

施策 6 安全で快適な道路の整備

2 評価点数（合計）

71 点

3 評価結果

	合計点数(評価者8人)	評価結果
	73～96点	適正な評価が行われている
	49～72点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	25～48点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～24点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

財政状況が厳しい中、ハードだけではなく、ソフトの面において、維持管理等において工夫をし、可能な場面では市民参加の手法も取り入れながら、道路の安全を確保すること。なお、道路の維持管理においては、緊急性のある補修などに対応できるように予算の確保をすること。

【その他参考意見】

- ・ 次年度に増額された予算に期待し、道路整備を進めていただきたい。（関口委員）
- ・ ソフトの面で、市民参加、市民の考えなどを、方向性として搾り出してほしい。（関口委員）
- ・ 道路整備のハード面が財政状況を理由に厳しいとしていることについては、ある程度理解するが、やりくりという点で、もう少しアイデアは出せないか。歩行者の交通量が多くなる道路や時間帯では、歩行者優先となる交通規制をかけることも関係機関にかけあえるようにできないか。（中村委員）
- ・ 電動車椅子や3人乗りの電動自転車が安全にすれ違いのできる道路（歩道）が、坂道の多い和光市には必要である。（松田委員）
- ・ 国道や県道についての危険箇所への市の認識は歩行者の安全性という観点から適正になされているのか疑問である。現状是正への適宜対応を望む。（泉委員）
- ・ 財政状況が厳しい状況ということは理解できるが、道路環境は即安全の問題につながることであるので、そこをどう考えるのかというコメントがほしかった（泉委員）
- ・ 限られた予算を最大限有効に生かし道路環境整備を推進する姿勢が伺えないと思う。計画は認められているのに予算確保できないのであれば、計画そのものの見直しということも考えられる。（藤川委員）
- ・ 計画的道路整備の推進、市道の拡幅整備・バリアフリー化の推進、狭あい道路の歩行者の安全性の確保は、厳しい財政状況に規定されて不十分である。安全性・緊急性を中心に取捨選択しながらベターな方法を探るしかない。また NPO や市民との協働でカバーできる事業においては、積極的に促すべきだと考える。（梅沢委員）
- ・ 余分な土地があるので、民間等に無償に貸して花を植えるなど植栽することで、快適な道路環境としていくのがいい。（金子部会長）
- ・ 理研の花を市の花として、植栽するのはいい。（梅沢委員）
- ・ PDCA のサイクルにおける「チェック」ということで、この段階での外部評価が、少しでもアクションに反映していける仕組みであればと思います。（関口委員）
- ・ 内部評価の評価という役割に加えて、「こうしたらいいのではないか。」といった、何かの提案をできる外部評価にしたらいい。今回の評価では、担当課が C と評価しているから、いい評価になっているが、それだけで終わったらせっかくの外部評価の機会がもったいない。財政状況が厳しい中でも、何か改善して行ってほしい。（中村委員）

外部評価結果報告（安全 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 28 日

- 1 施策名
施策 4 8 防災体制・消防支援体制の強化

- 2 評価点数（合計）

60 点

- 3 評価結果

	合計点数(評価者7人)	評価結果
	64～84点	適正な評価が行われている
	43～63点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	22～42点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～21点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

- 4 部会の意見

市の体制、地域の防災体制の組織強化が基本であり、重要である。

外部評価結果報告（安全 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 28 日

1 施策名

施策 5.5 地球温暖化対策の推進

2 評価点数（合計）

65 点

3 評価結果

	合計点数(評価者7人)	評価結果
	64～84点	適正な評価が行われている
	43～63点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	22～42点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～21点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

市民の身近な省エネ対策のいっそうの努力を望むとともに、また、本田技研、理化学研究所などの日本代表する企業、研究所との連携を和光市の特性として生かし、地球温暖化対策を図られたい。

外部評価結果報告（ 安心 部会）

評価日：平成 2 4 年 6 月 2 5 日

- 1 施策名
施策 1 5 地域と連携した教育の推進

- 2 評価点数（合計）

6 6 点

- 3 評価結果

	合計点数(評価者7人)	評価結果
	64～84点	適正な評価が行われている
	43～63点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	22～42点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～21点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

- 4 部会の意見

施策における指標について、目標値の設定に妥当性があるとはいえない。実績値を考慮した、より高い目標値の設定を行うべきである。

外部評価結果報告（ 安心 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 25 日

1 施策名

施策 20 小中学校の配置・規模の適正化の推進

2 評価点数（合計）

59 点

3 評価結果

	合計点数(評価者7人)	評価結果
	64～84点	適正な評価が行われている
	43～63点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	22～42点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～21点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

施策の指標について、小学校、中学校ともに平均された人数となっているため、学校において偏りがあるかどうか判断することが難しい。例えば人数の多い学校と少ない学校の差を指標とするなど、施策の目的や課題等を表すような指標とするべきである。

学校選択制の取組、新設校建設の取組ともに、施策評価表において具体的な取組、課題等が明確に評価されていない。特に新設校建設など長期的な取組においてこそ、しっかりとした短期（単年度）目標と評価が必要である。また、取組の結果等を明確にした上で、課題等に対する解決策を見出すべきである。

外部評価結果報告（ 安心 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 25 日

1 施策名

施策 36 高齢者の生きがいと社会参加への支援

2 評価点数（合計）

36 点

3 評価結果

	合計点数(評価者4人)	評価結果
	37～48点	適正な評価が行われている
	25～36点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	13～24点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～12点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

施策評価表の取組内容の評価の欄において課題等が明確に記載されていないため、内部評価が適切に行われているか疑問な取組がある。目的達成のために適切な取組を行っているならば、未達成事項・課題についてもしっかりと内部評価し、明確にするべきである。

外部評価結果報告（ 安心 部会）

評価日：平成 2 4 年 6 月 2 8 日

- 1 施策名
施策 3 2 多様な保育サービスの推進

- 2 評価点数（合計）

3 5 点

- 3 評価結果

	合計点数(評価者4人)	評価結果
	37～48点	適正な評価が行われている
	25～36点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	13～24点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～12点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

- 4 部会の意見

新たに保育園を開設してきたが、待機児童の解消に至っていない現状にある。今後においても新たな保育園の開設を目指すことを踏まえて、待機児童の解消に努めること。

外部評価結果報告（ 安心 部会）

評価日：平成 24 年 6 月 28 日

1 施策名

施策 50 コミュニティづくりの推進

2 評価点数（合計）

42 点

3 評価結果

	合計点数(評価者5人)	評価結果
	46～60点	適正な評価が行われている
	31～45点	妥当ではない部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われている
	16～30点	妥当な部分はあるが、どちらかというに適正な評価が行われていない
	0～15点	適正な評価が行われていない

該当区分に「 」を記入する。

4 部会の意見

自治会の機能として、従来の行政のパイプ役としての役割から、コミュニティづくりに変化しつつある。このことから、従来の取組のみならず、和光市の特徴、特色である若い人たち（世代）を対象とした取組に力を入れなければならない。

既存の目標値について再度検討すること。また、自治会の加入率を考えるならば、新たな自治会の設置数なども目標値として加えること。